

A photograph of a rocket launch, showing the rocket ascending vertically against a clear blue sky. The rocket is white with black markings, including the number '2020-2' on its side. The image is slightly blurred, emphasizing the motion of the launch.

角田市 学力向上 ゆめプラン 2022

～未来を拓く資質・能力を
育成するために～

令和4年3月
角田市教育委員会

はじめに

「学び」って楽しい

教育長 永井 哲

平成23年度にスタートした角田市の学力向上推進計画（10年計画）の中期プラン（平成27年度から3年間）として策定されたのが、この「角田市学力向上ゆめプラン」です。当時、私は、教育委員会事務局の職員としてプランの策定に関わっていたこともあり、このたび、平成30年度の改訂を経て、再び本プランが生まれ変わったことを、大きな喜びとともに大変感慨深く受け止めているところです。

学力向上推進委員会委員の方々と最初のプラン策定を行っていた平成26年当時、「学力向上」は、「全国学力・学習状況調査の正答率を上げること」とほぼ同義語ととらえられており、自治体や教育委員会を挙げて「点数を伸ばせ」「順位を上げろ」の大合唱が全国に響き渡っていました。平均正答率で1位を独占した秋田に学べと全国の教育研究者や教員が秋田を訪れる「秋田詣で」という言葉が流行ったのもこの頃でした。もちろん、私もその「秋田詣で」を行った一人です。

そのような状況の中で産声を上げたこのプランでしたが、策定にあたって最も留意したことが当時の教育長の巻頭言に記されています。すなわち、「学力調査の結果は、学力を図る一つの側面に過ぎないものであり、数値だけを追い求めるものとならないようにすること。」です。その思いは今、色褪せるどころか、ますます重要な視点となり、本プランの中にも引き継がれています。今後の課題として記された「今後、児童生徒が、主体的に授業に関われるような『楽しい』授業づくりに取り組んでいく必要があります。」という文言は、まさにその表れでしょう。

「教育とは、内発を誘発するための外発である」という言葉がありますが、教育の原点は、知的好奇心や向上心に火をつけることにあります。個別最適な学びも、協働的な学びも、一人一台のタブレットも、知的好奇心や向上心に火がついてこそ、その真価を発揮できるものでしょう。自分の成長、自己変革につながる学びは、本来楽しいものであるはずです。学力向上だって、テストの点数が上がればいいというものではなく、楽しさや学びに向かう力が担保されたものでなければなりません。というより、楽しさを感じたり、自ら学びに向かったり、成長しようとしたりすること自体もまた学力だということです。もちろん、口で言うほど簡単なことでないことは十分承知しています。でも、「子供たちは考えることを楽しんでいるか。」「子供たちは自らの興味に駆られて学びに向かっているか。」というような自問を、教師は決して忘れてはならないと思うのです。

これまでと変わることなく、本プランが、いわゆる学力テスト対策ではなく、真の学力を主体的に児童生徒に身に付けさせる手引きとなることを願っています。そして、本プランの趣旨を広く市民の皆様にも知っていただき、学校、家庭、地域、教育委員会が、総ぐるみで「楽しい」学びの環境づくりによる学力向上に取り組むことができれば、より大きな成果に結び付くに違いありません。

最後になりましたが、本プランの策定に御尽力いただいた学力向上推進委員の皆様、その他御協力いただいた関係各位に心より御礼を申し上げ、巻頭の言葉といたします。

目 次

第 1 章 プランの策定について

1	策定の趣旨	1
2	プランの位置付け	1
3	プランのコンセプト	1
4	計画の期間	1

第 2 章 角田市児童生徒の現状と課題

1	学力調査の結果から見た学力の現状	2
2	学習意欲、生活習慣等に関して	3
3	課題点のまとめ	4

第 3 章 プランの目指すもの

1	角田市学力向上ゆめプランの目標	5
---	-----------------	---

第 4 章 アクションプラン

A	各学校での取組	6
B	地域・家庭での取組	7
C	角田市教育委員会の取組	8～10



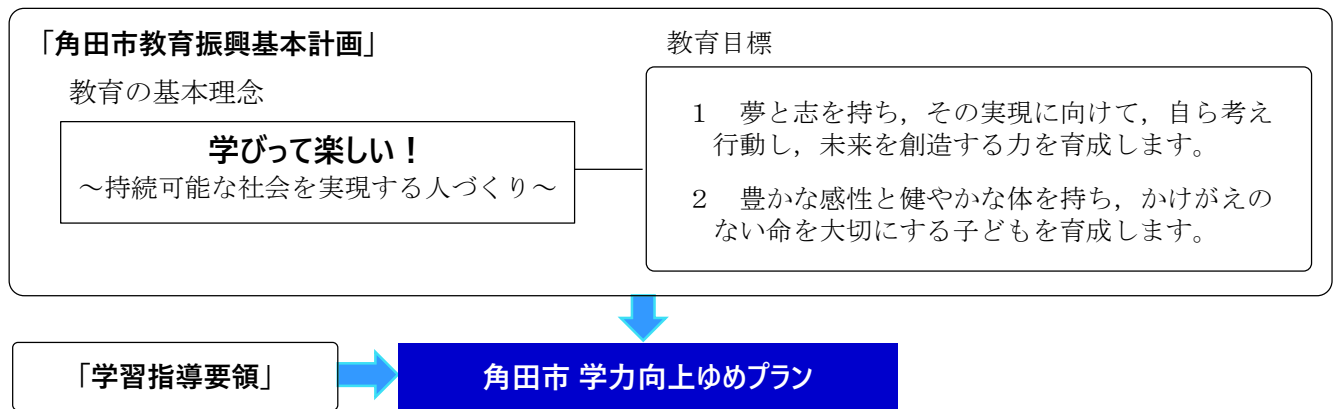
第1章 プランの策定について

1 策定の趣旨

本プランは、自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力などの資質や能力を重視する新しい学力観にあって、角田市の子供たち一人一人が、自らのよさや可能性を発揮して様々な対象に進んでかかわり、自分の課題を見付け、主体的に考えたり、判断したり、表現したりして解決していくことができるようにするために、学校、家庭・地域、市教育委員会が取り組んでいただきたい事項を提言としてまとめたものです。

全国学力学習状況調査（小6、中3実施）や標準学力調査（小2～中2実施）の結果からは、角田市の児童生徒も様々な課題を抱えていることが分かります。本プランは、これらの課題を改善し、角田市の子供たちがこれからの未来を拓く資質・能力を身に付けることができるよう、本市の教育に関わる各主体が、子供たちの教育や学びについてそれぞれの役割を自覚し、連携・協働しながら取り組むための具体的な方向性を示します。

2 プランの位置付け

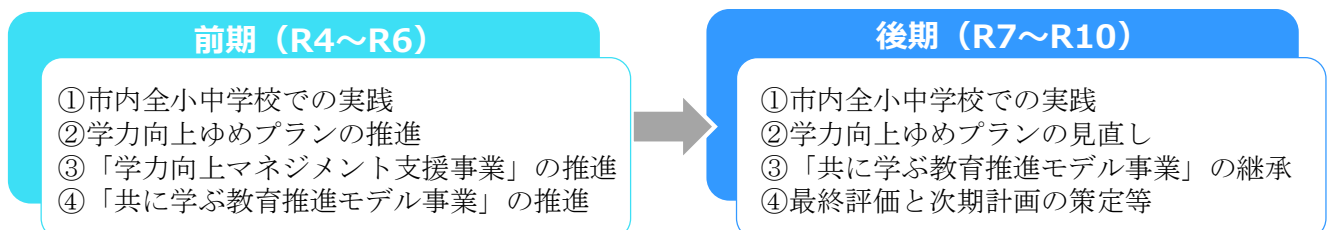


3 プランのコンセプト

- (1) 学習指導要領、角田市教育振興基本計画に則り、**学ぶことの楽しさを原動力に、「持続可能な社会を実現する人づくり」**を目指します。
- (2) **取組の主体**は「各学校」になります。このプランが各学校独自の取組を制限するものではありません。
- (3) 教師の授業力向上と児童生徒の学力向上、家庭・地域の教育力向上、学習環境の整備を進めるために、学校、家庭・地域、市教育委員会が後述する**アクションプラン**を**三本柱**として、それぞれが主体となり、かつ、連携・協働します。

4 計画の期間

令和4年度から令和6年度までの3年間を前期、令和7年度から令和10年度までの4年間を後期とし、次期学習指導要領の動向も踏まえながら、前期プランの成果と課題を基に、後期プランの見直し・修正を図ります。



第2章 角田市児童生徒の現状と課題

1 学力調査の結果から見た学力の現状

(1) 令和3年度全国学力・学習状況調査（令和3年5月実施）

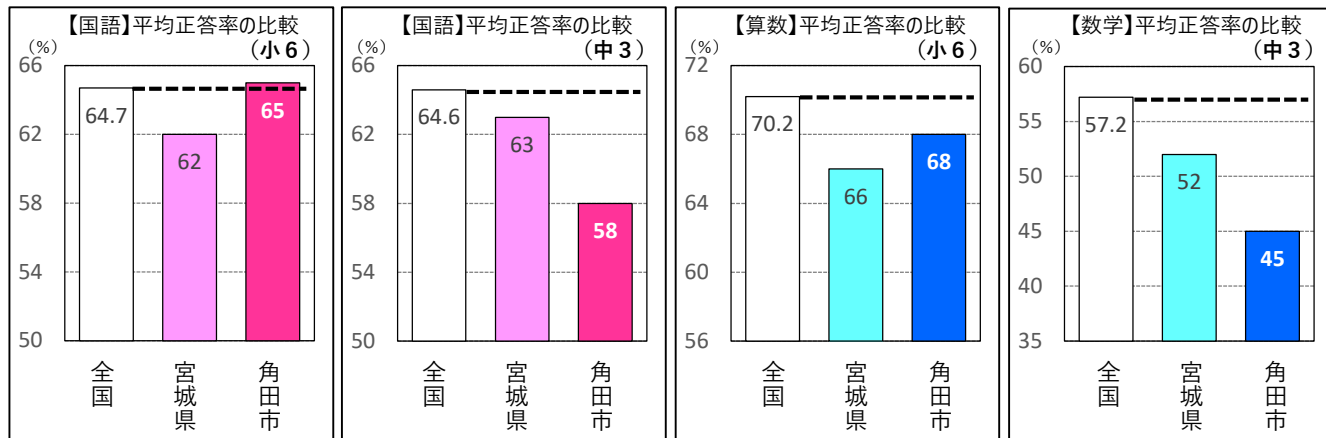


図1 令和3年度全国学力・学習状況調査の結果（※県平均は、仙台市を除いた平均値）

【国語】◎ 小・中ともに無回答率が下がり、粘り強く問題の解決に向かう様子が見られました。
◎ 小学校は、全国平均正答率と同等の結果になっています。
▲ 中学校は、全国平均正答率を下回っています。

【算数・数学】▲ 小学校は、全国平均正答率を下回りましたが、県平均を上回っています。
▲ 中学校は、全国平均正答率を10ポイント以上下回っています。
▲ 小・中とも、「考察した内容を記述すること」「文章から式に表すこと」に、全国水準とのかい離が見られました。

(2) 標準学力調査（毎年12月実施）

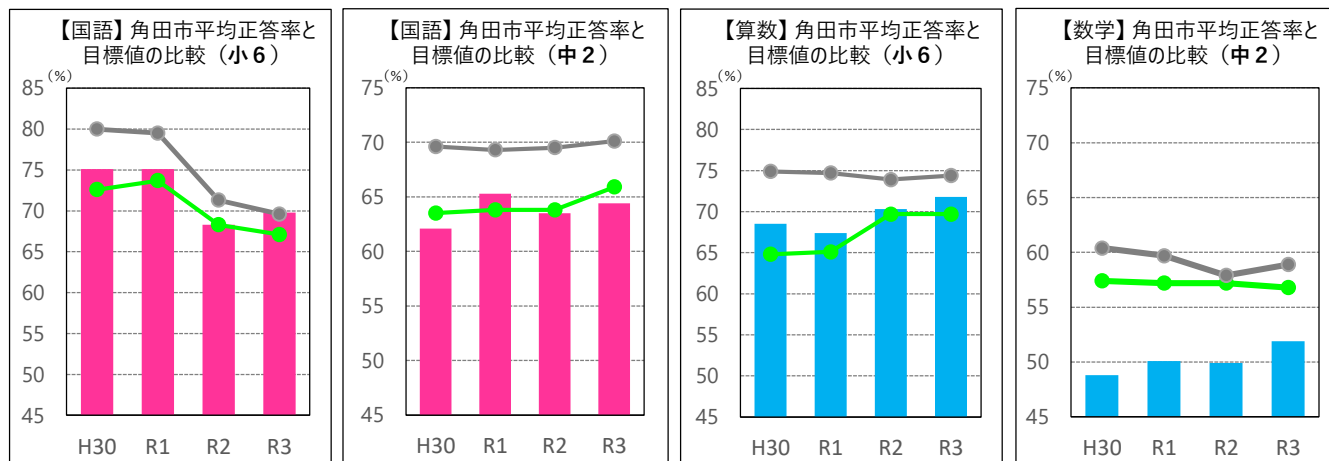


図2 標準学力調査国語、算数・数学の結果

【国語】◎ 小学校は、全国平均と同等の結果になっています。

【国語】◎ 中学校は、目標値※¹と同等ではあるものの、全国平均を下回る状況が続いています。

【算数】◎ 小学校は目標値を上回っているものの、全国平均を下回る状況が続いています。

【数学】▲ 中学校は目標値及び全国平均を5ポイント以上下回っています。

¹ 目標値とは、学習指導要領に示された内容について、標準的な時間をかけて学習した場合、小問ごとに正答できることを期待した児童生徒の割合を示したもの。また、「出題形式」や「解答形式」を基に初期設定した数値を、プレテスト等の検証を通じて適宜補正した数値。

2 学習意欲、生活習慣等に関して

(1) 全国学力・学習状況調査（令和3年5月）

【学習意欲、家庭学習】

- (①) 「国語の授業が分かる」という児童生徒の割合が、全国水準を上回っています。
- (②) 「家で、自分で計画を立てて勉強している」という児童生徒の割合が、全国水準を上回っています。

▲ (③) 家庭で1時間以上（小）・2時間以上（中）学習している児童生徒の割合が全国水準を大きく下回っています。

▲ (④) 普段30分以上読書している児童（小6）の割合が、全国水準を下回っています。

【生活習慣、自尊感情等】

- ▲ (⑤) 基本的な生活習慣（起床）の定着が、全国水準を下回っています。
- ▲ (⑥) 「将来の夢や、目標を持っている」と回答した児童生徒の割合が全国水準を下回っています。
- ▲ (⑦) 「自分にはよいところがある」と考えている割合が低く、小中とも全国平均を大きく下回っています。
- ▲ (⑧) 「地域や社会への関心」に対する項目が、全国平均を下回っています。

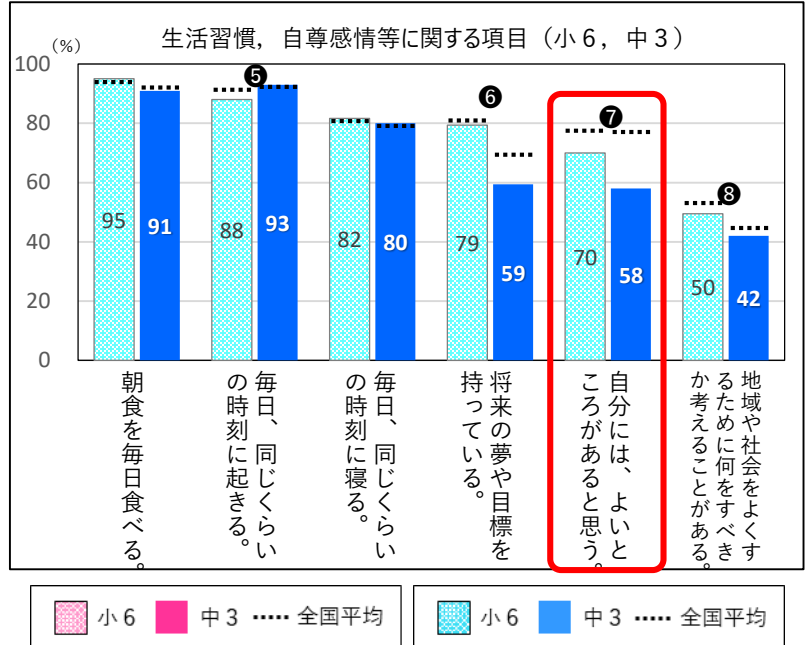
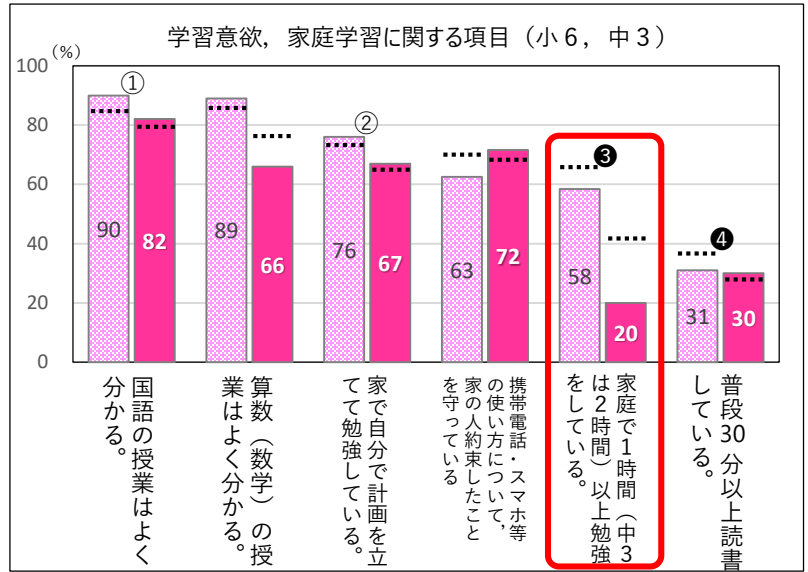


図3 令和3年度全国学力・学習状況調査 質問紙の結果

(2) 標準学力調査（令和3年12月）

【家庭学習等】

- (①②) 小中ともに、「自分で計画を立てて勉強していること」や「情報端末の学習への活用」が、全国水準を大きく上回っています。
- ▲ (③④) 小中ともに、「勉強に辞書を利用している」「新聞記事を読んでいる」児童生徒の割合が全国水準を大きく下回っています。

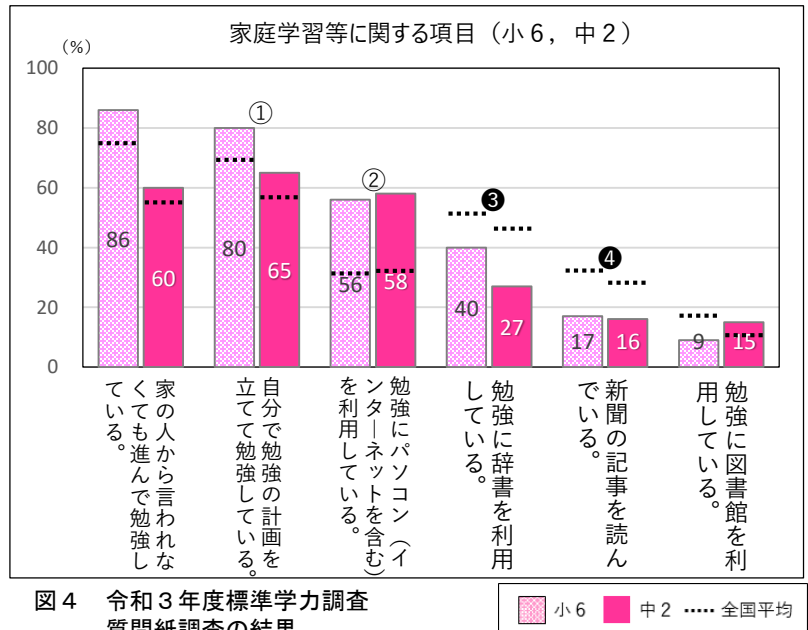
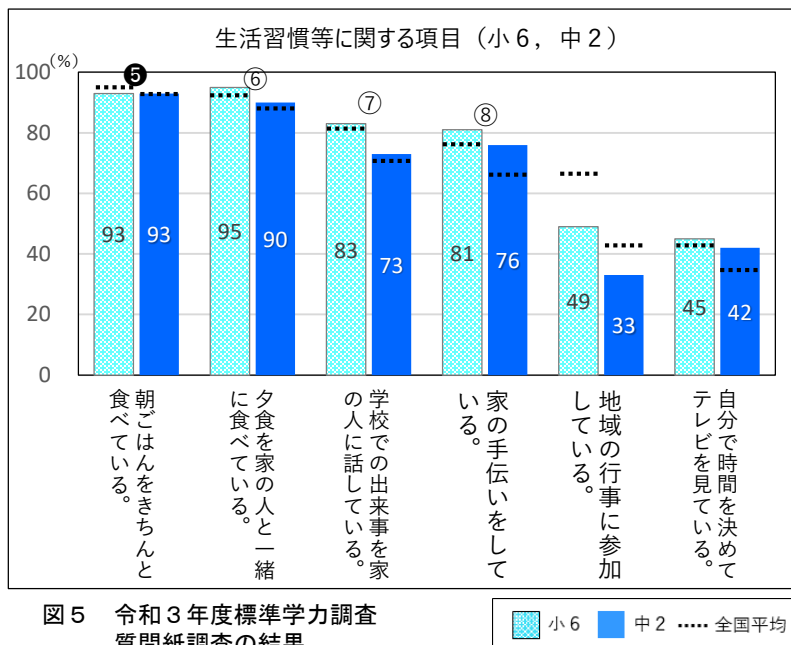


図4 令和3年度標準学力調査 質問紙調査の結果

【生活習慣等】

▲ (⑤) 朝食を食べずに登校する児童生徒が約 1 割見られました。

● (⑥⑦⑧) 「家族との夕食」「家族との会話」「家庭内での手伝い」など、「家族との関係性」に関する項目が、全国水準を上回っています。



3 課題点のまとめ

(1) 小学校では、国語、算数ともに、目標値を上回り、全国平均に近づいています。

(2) 中学校では、国語、数学ともに、全国平均を下回る状況が続いていますが、特に、国語と比較して数学により大きな差が見られます。

(3) 「授業内容がよく分かる」と答えた児童生徒の割合が全国を上回っていますが、児童生徒が家庭学習にける時間は全国平均を大きく下回っています。教員による「分かる」授業の取組は評価される一方で、児童生徒の各教科への興味・関心、知的好奇心を十分に育み、学習意欲を高めることができなかったと考えられます。今後、児童生徒が学校でも家庭でも、主体的に学習に関われるような「楽しい」授業づくりに取り組んでいく必要があります。

(4) 家庭学習や読書の時間が全国平均を下回っていたり、基本的な生活習慣（起床・就寝時刻、朝食）の定着が十分でなかったりすることから、望ましい学習習慣や生活習慣を確立する必要があります。

(5) 学習に向かう意欲が高く、将来の夢や希望を持っていますが、それらと「自尊感情・自己肯定感」や「社会への関心」との結びつきが弱い傾向にあります。そのため、「自尊感情・自己肯定感」や「社会への関心」に対する意識を高め、意欲的に学習したり、学んだことを実際の生活場面で生かすことができるような機会や課題を設定したりする必要があります。

第3章 プランの目指すもの

1 角田市学力向上ゆめプランの目標

これまでの「角田市学力向上ゆめプラン」を継承しながら、今後は、身に付けた知識を活用したり、新たな課題に対して意欲的に取り組んだりする「持続可能な社会を実現する人づくり」を目指します。特に、以下の3つを目標として学校、家庭・地域、市教育委員会が連携・協働して取り組みます。

目標1

自分や他者の価値、貢献の意義について、前向きに捉える児童生徒の割合を全国平均値と同等にする。

※1：目標1は、角田市の児童生徒の実態から設定した目標です。

子供たちが、自立のかつ協働的な学習者となり、社会的な存在としての自覚を持つことによって「持続可能な社会を実現する人づくり」が可能になると考えます。

目標2

角田市標準学力調査において、各教科の「授業内容が分かる」と答える児童生徒の割合を全国平均値と同等にする。

※2：目標2は、全国学力学習状況調査（以下「全学調」と表記）と標準学力調査で同じ内容の調査項目があるため、実施人数の多い標準学力調査（小3～中2）を対象とします。そうすることで、教員が関係するより多くの児童生徒への指導法改善に生かすことができます。



目標3

角田市標準学力調査における各教科の平均正答率を全国平均値と同等にする。

※3：標準学力調査等による評価について

標準学力調査やワークテスト、定期考査などの紙媒体による学力の測定では、±5%程度の誤差が含まれます。また、標準学力調査やワークテスト、定期考査などの測定方法は、同一条件で行うため、個人の資質・能力を正確に反映するものではありません。特に、平均値や平均正答率で評価する場合、個人の資質・能力の実態を見取るとは困難です。

以上のことを踏まえ、各学校においては、評価方法（場面や材料等）を工夫し、個人の学力の評価が信憑性・妥当性のあるものになるよう努め、現時点で、どの子がどの程度の到達度にあるかを把握します。その結果を分析し、学年及び個々の経年変化を捉えるとともに、目標値に到達していない児童生徒への具体的な手立てを講じます。

A

角田市小・中学校での取組

1 角田市版「5つの提言」を実践します

(1) 児童生徒が、楽しく「分かる・できる」授業をつくります。

- ①教師は**ファシリテーター**（調整役）となり、児童生徒一人一人が活躍できるような授業づくりに取り組みます。特に、児童生徒の主体性を発揮させるには、課題設定を児童生徒自身に行わせることが大切です。
- ②児童生徒の興味・関心や生活経験、学び方や認知特性を把握し、**実感の伴う授業**や**ユニバーサルデザイン**（以下UD）を心掛けた授業づくりに取り組みます。

(2) 効果的なほめ方・声掛けをし、学習意欲を高めます。

- ①ほめ方について
 - ・**努力や挑戦する姿勢をほめて、自信を持たせることが**大切です。人と比べて評価するのは適切ではありません。
 - ・「ほめ方」の違いで子供たちの取り組む姿勢が変わります。努力をほめると、その後のテストでも粘り強く問題を解こうと挑戦を続け、点数や能力をほめるよりも効果的です。
- ②児童生徒との関わり方について
 - ・効果的な声掛けをすることによって、相手の立場に立って考える力や行動を振り返る力を育てます。
 - ・叱る理由を具体的に説明し、**どうしたらいいかを子供自身に考えさせることが**大切です。
 - ・間違えや過不足等を正す際に、「何度言ったら…」「分かっていると思うが…」という言い方は、子供に対して効果のある伝え方ではありません。「それって～なのかな?」「自分ではどうしていきたい?」「もう終わりでいいのかな?」などの問い掛けを行います。
- ③その子自身の持つ特性や性格、その時の状況に応じたほめ方・声掛けを工夫します。

(3) 学習のめあて（ねらい）を焦点化し、問い返しや振り返りを適宜行います。

- ①児童生徒が学習の見通しを持って授業に臨み、主体的に学習するために「めあて」の設定は重要です。**「めあて」は、学習のねらいに迫るとともに、思考や学習活動が焦点化される内容にすることが大切です。**
- ②子供へ「**問い返し（揺さぶり）**」を行うことで、児童生徒の主体的な参加を促すとともに、思考の深まりが期待できます。
- ③授業を通して、児童生徒に「**どんな学習をして何が分かったのか**」「**自分はどんな考えを持つことができたか**」「**もっと考えたいこと**」などについて**自覚させるための「振り返り」**を充実させることが大切です。

(4) 思考させたり、判断させたりする前にノート等に考えを記入させます。

- 児童生徒が主体的に学習に参加するために「**書く活動**」を設定します。



(5) 教師と児童生徒、児童生徒同士の対話的な学びを通して、考えを広げたり深めたりします。

- ①児童生徒に**対話の必然性を持たせられるような課題**を吟味し、**対話的な学びのねらいを明確にした指導**を心掛けます。
- ②教師が「**学習活動のゴールイメージ**」を明確に捉えた上で、子供の発言とそれまでの議論を評価しつつ、発言をつないでねらいに迫れるようにします。

2

家庭学習の進め方を指導し、主体的な学習態度を育てます

- (1) 家庭学習の進め方は、「家庭学習のてびき」に詳しく掲載されていますので、参考にしてください。
「角田市 家庭学習のてびき」で検索すると「かくだっ子パワーアップのための 家庭学習のてびき」をダウンロードできます。
- (2) 小学校低学年は復習を重点に置きます。児童の実態に応じて段階的に自主学習への取組を指導します。
自主学習は、自分で計画を立て、得手・不得手、興味・関心に応じて行えるよさがあります。予習は、苦手な教科に取り組むと有効です。

3

読書に親しむ時間を確保し、読書への意欲付けを行います

- (1) 読書そのものの魅力とともに、様々な能力を身に付けるのにも有効です。理解力はもちろん、想像力や表現力、語彙が豊かになるなど、様々なメリットがあります。
- (2) 子供の頃に読書活動が多い大人ほど、「未来志向」「社会性」「意欲・関心」「文化的作法・教養」「市民性」において、現在の意欲や能力が高いという結果が出ています。（国立青少年教育振興機構の調査から）

B

家庭・地域での取組

1

保護者が手伝いや役割を与え、
家族や地域の一員としての自覚を促します

- (1) 手伝いや役割を果たすことで、「自己肯定感」「問題解決能力」「自立」「責任感」「コミュニケーション能力」などが育成されます。ほめられることでやりがいや勤労意欲が芽生え、失敗しても解決策が示されることで次の見通しを立てることができるようになります。
- (2) 今の子供たちは「直接体験」の経験が減っています。自然体験活動やボランティア経験をした人は、課題解決能力（分からないことはそのままにしないで調べる）や豊かな人間性（誰とでも協力してグループ活動ができる、相手の立場になって考えることができる）といった「生きる力」が備わります。

2

望ましい生活習慣を確立するために、
就寝時刻やゲームの時間について決めるようにします

- (1) 生活のリズムを整えることが学力向上につながると明らかになっています。「はやね・はやおき・朝ごはん」が生活リズムの大原則です。
 - ① 適度な睡眠時間を確保してください。
小学生の就寝時刻は、「成長ホルモン」が活発に分泌される夜10時前が望ましいです。また、小学生は9～11時間程度、中学生は8～10時間程度の睡眠が必要とされていることを踏まえて、お子様の就寝時刻を決めましょう。

- (2) 動画視聴やゲームの時間が1日1時間を超えると、子供の発達や学習時間への負の影響があることが明らかになっています。（学習時間が減る、視力が下がる、イライラしやすくなる、眠れない、疲れがとれない、やる気がでない等）

以下の点について、メディア・コントロールができるよう、各家庭での御協力をお願いします。

- ① 低・中学年は20時以降、高学年は21時以降の動画視聴を止めましょう。 中学生は小学校の取組を参考にして、各家庭で約束事を決めて取り組みましょう。
- ② 週に1回「ノーメディアデー」をつくりましょう。ゲームや学習に関係のない動画等の視聴時間を、学習や読書、家族団らんなどに使うことで、生活習慣を見直し、子供の計画性・忍耐力を養うことをねらいとした取組です。お子様と話し合って、何曜日を「ノーメディアデー」にするか決めて取り組みましょう。できるところから始めて、少しずつ自分で時間をコントロールできる子供に育てていきましょう。

3

保護者がスマホにフィルタリングをかけたり、通信機能付きゲーム機の使用方法について指導したりして、子供たちを犯罪から守ります

- 子供たちを狙ったインターネット犯罪、不適切サイト、個人情報漏洩、ゲーム中毒、いじめなどの問題から子供たちを守りましょう。

4

保護者が家庭学習の内容を確認し、ほめたり認めたりします

- 子供が家庭学習をするには、家にいる人が「勉強を見ている」「勉強する時間を決めて守らせている」ことで効果が高くなり、「勉強しなさい」と言うのは効果が低いことが明らかになっています。

C

角田市教育委員会の取組

1

学力向上推進委員会※²を組織し、小・中が連携して取り組む児童生徒の資質・能力育成の方策を検討・実践・改善します

- (1) 学校と教育委員会の担当で組織する「角田市学力向上推進委員会」で、児童生徒の実態等についての情報交換を行い、具体的な学力向上に向けた方策を検討します。また、中学校区ごとの9年間を見通した取組について協議し、小・中の連携を図ります。
- (2) 宮城県教育委員会指定事業「学力向上マネジメント支援事業※³」「共に学ぶ教育推進モデル事業※⁴」を受け、それに伴う研修会や研究授業を実施します。

※² 学力向上推進委員会とは、市内小中学校と教育委員会の担当者（約15名程度）で組織され、児童生徒の学力や実態等について情報交換を行い、具体的な学力向上に向けた方策を考えている組織。

※³ 学力向上マネジメント支援事業とは、各教育事務所に配置した学力向上マネジメント・アドバイザーの支援のもと、年2回の学力調査を軸としたPDCAサイクルの確立に向けて、市全体で学力向上に取り組む体制を構築するための事業。

2 角田市独自の学力テストを実施します

- 小・中学生を対象とした国語、算数・数学の標準学力調査を年2回（4月、12月）実施し、本市児童生徒の学力・生活習慣等の現状と課題を明らかにした上で、対策（授業改善等）を講じます。

3 大学等と連携し、校内研修の講師を派遣するなどの支援を行います

- 宮城教育大学（H24.2に連携協力に関する覚書を締結）をはじめとする教育機関・民間企業から専門家を招へいし、専門的かつ先進的な指導を受けながら実践的な研究授業を行い、授業改善や指導力の向上を図ります。

4 GIGAスクール構想※⁵を生かして子供たち一人ひとりに個別最適化され、創造性を育む教育・ICT環境を実現します

- （1）ICT※⁶や先端技術の効果的な活用を図り、学習指導要領の着実な実施、個別最適な学びや支援を推進し、学びの質を向上します。
- （2）児童生徒一人ひとりに、タブレット端末（Chromebook）を配布し、授業だけでなく、家庭学習等に活用できるようにします。

5 学校図書館支援員・特別支援教育支援員を配置し、学校及び児童生徒をサポートします

- （1）学校図書館支援員の配置（令和3年度は2名）により、学校図書館利用の促進や整備に努め、読書に親しむ環境を整えます。
- （2）児童生徒一人ひとりのニーズに合った教育活動の支援のために、各学校に特別支援教育支援員（令和3年度は22名）を配置し、個に応じた指導の充実に努めます。

⁴ 共に学ぶ教育推進モデル事業とは、障害のある（特別な支援を要する）児童生徒が地域の学校に在籍し障害のない児童生徒と「共に学ぶ」場合に必要となる教育方法や校内体制の確立に向けた支援を推進する事業。

⁵ GIGAスクール構想とは、2019年12月に文部科学省から発表されたプロジェクトである。GIGAとは、Global and Innovation Gateway for Allの略。小学校の児童、中学校の生徒1人に1台PCと、全国の学校に高速大容量の通信ネットワークを整備し、多様な子供たちに最適化された創造性を育む教育を実現しようとする構想のこと。

⁶ ICTとは、Information and Communications Technology（情報通信技術）の略称。

6

積極的に情報を公表し、学校・家庭・地域の連携を図ります

- 生活習慣や学習習慣等の課題について、学校・家庭・地域が情報を共有し、連携しながら改善に向かうことができるように、必要な情報を積極的に公表します。

7

適応指導教室を設置し、様々な「学び」の形を支援します

- 平成30年6月より、適応指導教室（名称：Cocoはうすかくだ）を開設し、子供のニーズに合ったサポートを行い、児童・生徒の学びを支援しています。



令和2年度角田市学力向上推進委員

委員長	角田市立金津中学校	校長 佐々木 泰正		
副委員長	角田市立枝野小学校	校長 紙谷 ゆたか		
委員	角田市立角田小学校	教諭 佐藤 隆史	角田市立角田中学校	教諭 吉田 啓介
	角田市立角田小学校	教諭 小林 佳之	角田市立枝野小学校	教諭 菅野 明子
	角田市立藤尾小学校	教諭 佐藤 淳	角田市立桜小学校	教諭 熊谷 陽子
	角田市立東根小学校	教諭 佐藤 尚也	角田市立北郷小学校	教諭 伊藤 誠孝
	角田市立西根小学校	教諭 小野寺千夏	角田市立横倉小学校	教諭 林 俊也
	角田市立角田中学校	教諭 鹿野 さやか	角田市立金津中学校	教諭 引地千枝美
	角田市立北角田中学校	教諭 村上 智幸		
事務局	角田市教育委員会 教育総務課 教育振興係長	我妻 一宏		
	角田市教育委員会 教育総務課 副主幹	大沼 章		
	角田市教育委員会 教育総務課 主査	目黒 貴将		

※「角田市学力向上ゆめプラン2022」の策定及びその検討は、令和2年度より実施した。

令和3年度角田市学力向上推進委員

委員長	角田市立金津中学校	校長 佐藤 勇寿		
副委員長	角田市立枝野小学校	校長 三浦 博之		
委員	角田市立角田小学校	主幹教諭 佐藤 隆史	角田市立角田中学校	教諭 吉田 啓介
	角田市立角田小学校	教諭 我妻 那留美	角田市立枝野小学校	教諭 菅野 明子
	角田市立藤尾小学校	教諭 熊谷 悦子	角田市立桜小学校	教諭 佐藤 るみ
	角田市立北郷小学校	教諭 高橋 里美	角田市立西根小学校	教諭 小野寺千夏
	角田市立横倉小学校	教諭 小松 美穂	角田市立角田中学校	教諭 鹿野 さやか
	角田市立金津中学校	教諭 引地 千枝美	角田市立北角田中学校	教諭 氏家 幹夫
事務局	角田市教育委員会 教育総務課 教育振興係長	菊地 亯弥		
	角田市教育委員会 教育総務課 副主幹	大沼 章		

角田市学力向上ゆめプラン

発行年月 令和4年3月
編集発行 角田市学力向上推進委員会
所在地 角田市角田字大坊41
電話 0224-63-0130